柳川の殿（トン）さんとよばれて…

旧柳河藩第十六代当主

立花和雄 私史

結婚により旧柳河藩立花家の当主を継いだ「殿さん」が、敢然として料亭経営に挑んだ…巧まぬユーモアとペーソスで、懐かしの大正・昭和のキャンバスに描いた人生模様。水郷にまつわる作家たちが彩りを添える。

柳川の殿（トン）さんとよばれて…

旧柳河藩第十六代当主

立花和雄 私史

宗鑑が兄貴風にいう。

「お父ちゃまだけじゃ、かわいそうだよ」

「よか、よか、みんな乗れッ」とみんなをリヤカーに乗せた。冬の堀割が鉛色の光を放っていた。懐かしの柳川をリヤカーに家族を乗せ、お手伝いさんとゆっくり進んだ。騒々しい私たちを気にとめて見ようとする人はだれもいなかった。結婚したときは何百人もの歓迎の出迎えのなかを乗用車で「御花」に入ったが、こんどはなんという帰省であろうか。

――本文中「帰郷」より――

梓書院　梓書院 定価:本体2,095円+税　ISBN4-87035-040-8 C00